

# ヨハネの福音書

人生って、これだけ？

イエスとの出会い！



## 5つの「リ」・5 Rs

リテル・Retell

ストーリーを言い返しながら、不明な点やよくわからない所がありますか？

Are there parts I find unclear or confusing as I retell the narrative?

リアクト・React

人々はどうイエスに反応しているのでしょうか？

How are different people responding to Jesus here?

リビール・Reveal

言葉や行動から、イエスについて何が明らかになりますか？

What is revealed about Jesus, through words and actions?

リーズン・Reason

筆者ヨハネは、なぜこの出来事を書き入れたのでしょうか？

What reason do I think John had for including this event?

レスポンド・Respond

ヨハネがここで明らかにしたことに対して、どう応答しますか？

How will I respond to what this part of John uncovers about Jesus?

## ヨハネの福音書 1章 1節～18節

<sup>1</sup>初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。<sup>2</sup>この方は、初めに神とともにおられた。<sup>3</sup>すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。<sup>4</sup>この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。<sup>5</sup>光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。

<sup>6</sup>神から遣わされた一人の人が現れた。その名はヨハネであった。<sup>7</sup>この人は証しのために来た。光について証しするためであり、彼によってすべての人が信じるためであった。<sup>8</sup>彼は光ではなかった。ただ光について証しするために来たのである。<sup>9</sup>すべての人を照らすそのまことの光が、世に来ようとしていた。

<sup>10</sup>この方はもともとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。<sup>11</sup>この方はご自分のところに来られたのに、ご自分の民はこの方を受け入れなかった。<sup>12</sup>しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。<sup>13</sup>この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。

<sup>14</sup>ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもともとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。<sup>15</sup>ヨハネはこの方について証しして、こう叫んだ。「『私の後に来られる方は、私にま

さる方です。私より先におられたからです』と私が言ったのは、この方のことです。」<sup>16</sup> 私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けた。<sup>17</sup> 律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。<sup>18</sup> いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。

## ヨハネの福音書 2章 1節～12節

<sup>1</sup>それから三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があり、そこにイエスの母がいた。<sup>2</sup>イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれていた。<sup>3</sup>ぶどう酒がなくなると、母はイエスに向かって「ぶどう酒がありません」と言った。<sup>4</sup>すると、イエスは母に言われた。「女の方、あなたはわたしと何の関係がありますか。わたしの時はまだ来ていません。」<sup>5</sup>母は給仕の者たちに言った。「あの方が言われることは、何でもしてください。」

<sup>6</sup>そこには、ユダヤ人のきよめのしきたりによって、石の水がめが六つ置いてあった。それぞれ、二あるいは三メートル入りのものであった。<sup>7</sup>イエスは給仕の者たちに言われた。「水がめを水でいっぱいにしなさい。」彼らは水がめを縁までいっぱいにした。<sup>8</sup>イエスは彼らに言われた。「さあ、それを汲んで、宴会の世話役のところを持って行きなさい。」彼らは持って行った。

<sup>9</sup>宴会の世話役は、すでにぶどう酒になっていたその水を味見した。汲んだ給仕の者たちはそれがどこから来たのかを知っていたが、世話役は知らなかった。それで、花婿を呼んで、<sup>10</sup>こう言った。「みな、初めに良いぶどう酒を出して、酔いが回ったところに悪いのを出すものだが、あなたは良いぶどう酒を今まで取っておきました。」

<sup>11</sup>イエスはこれを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

<sup>12</sup>その後イエスは、母と弟たち、そして弟子たちとともにカペナウムに下って行き、長い日数ではなかったが、そこに滞在された。

## ヨハネの福音書 2章 23節～3章 21節

<sup>23</sup> 過越の祭りの祝いの間、イエスがエルサレムにおられたとき、多くの人々がイエスの行われたしるしを見て、その名を信じた。<sup>24</sup> しかし、イエスご自身は、彼らに自分をお任せにならなかった。すべての人を知っていたので、<sup>25</sup> 人についてだれの証言も必要とされなかったからである。イエスは、人のうちに何があるかを知っておられたのである。

<sup>3:1</sup> さて、パリサイ人の一人で、ニコデモという名の人があった。ユダヤ人の議員であった。<sup>2</sup> この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられなければ、あなたがなさっているこのようなしるしは、だれも行うことができません。」

<sup>3</sup> イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」<sup>4</sup> ニコデモはイエスに言った。「人は、老いていながら、どうやって生まれることができますか。もう一度、母の胎に入って生まれることなどできるでしょうか。」

<sup>5</sup> イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。<sup>6</sup> 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。<sup>7</sup> あなたがたは新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思ってはなりません。<sup>8</sup> 風は思いのままに吹きます。その音を聞いても、それがどこから来てどこへ

行くのか分かりません。御霊によって生まれた者もみな、それと同じです。」

<sup>9</sup>ニコデモは答えた。「どうして、そのようなことがあり得るでしょうか。」<sup>10</sup>イエスは答えられた。「あなたはイスラエルの教師なのに、そのことが分からないのですか。<sup>11</sup>まことに、まことに、あなたに言います。わたしたちは知っていることを話し、見たことを証ししているのに、あなたがたはわたしたちの証しを受け入れません。<sup>12</sup>わたしはあなたがたに地上のことを話しましたが、あなたがたは信じません。それなら、天上のことを話して、どうして信じるでしょうか。<sup>13</sup>だれも天に上った者はいません。しかし、天から下って来た者、人の子は別です。<sup>14</sup>モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。<sup>15</sup>それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」

<sup>16</sup>神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。<sup>17</sup>神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。<sup>18</sup>御子を信じる者はさばかれない。信じない者はすでにさばかれている。神のひとり子の名を信じなかったからである。

<sup>19</sup>そのさばきとは、光が世に来ているのに、自分の行いが悪いために、人々が光よりも闇を愛したことである。<sup>20</sup>悪を行う者はみな、光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光の方に来



ない。<sup>21</sup>しかし、真理を行う者は、その行いが神にあってなされたことが明らかになるように、光の方に来る。

## ヨハネの福音書 4章 5節～30節、39節～42節

<sup>5</sup>それでイエスは、ヤコブがその子ヨセフに与えた地所に近い、スカルというサマリアの町に来られた。<sup>6</sup>そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れから、その井戸の傍らに、ただ座っておられた。時はおよそ第六の時であった。

<sup>7</sup>一人のサマリアの女が、水を汲みに来た。イエスは彼女に、「わたしに水を飲ませてください」と言われた。<sup>8</sup>弟子たちは食物を買いに、町へ出かけていた。<sup>9</sup>そのサマリアの女は言った。「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリアの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」ユダヤ人はサマリア人と付き合いをしなかったのである。<sup>10</sup>イエスは答えられた。「もしあなたが神の賜物を知り、また、水を飲ませてくださいとあなたに言っているのがだれなのかを知っていたら、あなたのほうからその人に求めていたでしょう。そして、その人はあなたに生ける水を与えたことでしょう。」

<sup>11</sup>その女は言った。「主よ。あなたは汲む物を持っておられませんし、この井戸は深いのです。その生ける水を、どこから手に入れられるのでしょうか。<sup>12</sup>あなたは、私たちの父ヤコブより偉いのでしょうか。ヤコブは私たちにこの井戸を下さって、彼自身も、その子たちも家畜も、この井戸から飲みました。」

<sup>13</sup>イエスは答えられた。「この水を飲む人はみな、また渴きます。

<sup>14</sup>しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことがありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」

<sup>15</sup>彼女はイエスに言った。「主よ。私が渴くことのないように、ここに汲みに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」<sup>16</sup>イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」<sup>17</sup>彼女は答えた。「私には夫がいません。」イエスは言われた。「自分には夫がない、と言ったのは、そのとおりです。<sup>18</sup>あなたには夫が五人いましたが、今一緒にいるのは夫ではないのですから。あなたは本当のことを言いました。」

<sup>19</sup>彼女は言った。「主よ。あなたは預言者だとお見受けします。<sup>20</sup>私たちの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」<sup>21</sup>イエスは彼女に言われた。「女の人よ、わたしを信じなさい。この山でもなく、エルサレムでもないところで、あなたがたが父を礼拝する時が来ます。<sup>22</sup>救いはユダヤ人から出るのですから、わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。<sup>23</sup>しかし、まことの礼拝者たちが、御霊と真理によって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はそのような人たちを、ご自分を礼拝する者として求めておられるのです。<sup>24</sup>神は霊ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理によって礼拝しなければなりません。」

<sup>25</sup>女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシアが来られることを知っています。その方が来られるとき、一切のことを私たちに知らせてくださるでしょう。」<sup>26</sup>イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」

<sup>27</sup> そのとき、弟子たちが戻って来て、イエスが女の人と話しておられるのを見て驚いた。だが、「何を求めですか」「なぜ彼女と話しておられるのですか」と言う人はだれもいなかった。<sup>28</sup> 彼女は、自分の水がめを置いたまま町へ行き、人々に言った。<sup>29</sup> 「来て、見てください。私がしたことを、すべて私に話した人がいます。もしかすると、この方がキリストなのではないでしょうか。」<sup>30</sup> そこで、人々は町を出て、イエスのもとにやって来た。

。 。 。

<sup>39</sup> さて、その町の多くのサマリア人が、「あの方は、私がしたことをすべて私に話した」と証言した女のことによって、イエスを信じた。<sup>40</sup> それで、サマリア人たちはイエスのところに来て、自分たちのところに滞在してほしいと願った。そこでイエスは、二日間そこに滞在された。<sup>41</sup> そして、さらに多くの人々が、イエスのことばによって信じた。<sup>42</sup> 彼らはその女に言った。「もう私たちは、あなたが話したことによって信じているのではありません。自分で聞いて、この方が本当に世の救い主だと分かったのです。」

## ヨハネの福音書 5 章 1 節～24 節

<sup>1</sup>その後、ユダヤ人の祭りがあって、イエスはエルサレムに上られた。<sup>2</sup>エルサレムには、羊の門の近くに、ヘブル語でベテスダと呼ばれる池があり、五つの回廊がついていた。<sup>3</sup>その中には、病人、目の見えない人、足の不自由な人、からだに麻痺のある人たちが大勢、横になっていた。

<sup>5</sup>そこに、三十八年も病気にかかっている人がいた。<sup>6</sup>イエスは彼が横になっているのを見て、すでに長い間そうしていることを知ると、彼に言われた。「良くなりたいか。」<sup>7</sup>病人は答えた。「主よ。水がかき回されたとき、池の中に入れてくれる人がいません。行きかけると、ほかの人が先に下りて行きます。」<sup>8</sup>イエスは彼に言われた。「起きて床を取り上げ、歩きなさい。」<sup>9</sup>すると、すぐにその人は治って、床を取り上げて歩き出した。ところが、その日は安息日であった。

<sup>10</sup>そこでユダヤ人たちは、その癒やされた人に、「今日は安息日だ。床を取り上げることは許されていない」と言った。<sup>11</sup>しかし、その人は彼らに答えた。「私を治してくださった方が、『床を取り上げて歩け』と私に言われたのです。」<sup>12</sup>彼らは尋ねた。「『取り上げて歩け』とあなたに言った人はだれなのか。」<sup>13</sup>しかし、癒やされた人は、それがだれであるかを知らなかった。群衆がそこにいる間に、イエスは立ち去られたからである。

<sup>14</sup>後になって、イエスは宮の中で彼を見つけて言われた。「見なさい。あなたは良くなった。もう罪を犯してはなりません。そうでな

いと、もっと悪いことがあなたに起こるかもしれない。」<sup>15</sup> その人は行って、ユダヤ人たちに、自分を治してくれたのはイエスだと伝えた。

<sup>16</sup> そのためユダヤ人たちは、イエスを迫害し始めた。イエスが、安息日にこのようなことをしておられたからである。<sup>17</sup> イエスは彼らに答えられた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。それでわたしも働いているのです。」<sup>18</sup> そのためユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っただけでなく、神をご自分の父と呼び、ご自分を神と等しくされたからである。<sup>19</sup> イエスは彼らに答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。子は、父がしておられることを見て行う以外には、自分から何も行うことはできません。すべて父がなさることを、子も同様に行うのです。<sup>20</sup> それは、父が子を愛し、ご自分がすることをすべて、子にお示しになるからです。また、これよりも大きなわざを子にお示しになるので、あなたがたは驚くことになります。<sup>21</sup> 父が死人をよみがえらせ、いのちを与えられるように、子もまた、与えたいと思う者にいのちを与えます。<sup>22</sup> また、父はだれをもさばかず、すべてのさばきを子に委ねられました。<sup>23</sup> それは、すべての人が、父を敬うのと同じように、子を敬うようになるためです。子を敬わない者は、子を遣わされた父も敬いません。<sup>24</sup> まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わされた方を信じる者は、永遠のいの

ちを持ち、さばきにあうことがなく、死からいのちに移っています。

## ヨハネの福音書 11 章 1 節～44 節

<sup>1</sup> さて、ある人が病気にかかっていた。ベタニアのラザロである。ベタニアはマリアとその姉妹マルタの村であった。<sup>2</sup> このマリアは、主に香油を塗り、自分の髪で主の足をぬぐったマリアで、彼女の兄弟ラザロが病んでいたのである。<sup>3</sup> 姉妹たちは、イエスのところに使いを送って言った。「主よ、ご覧ください。あなたが愛しておられる者が病気です。」

<sup>4</sup> これを聞いて、イエスは言われた。「この病気は死で終わるものではなく、神の栄光のためのものです。それによって神の子が栄光を受けることになります。」<sup>5</sup> イエスはマルタとその姉妹とラザロを愛しておられた。<sup>6</sup> しかし、イエスはラザロが病んでいると聞いてからも、そのときいた場所に二日とどまられた。<sup>7</sup> それからイエスは、「もう一度ユダヤに行こう」と弟子たちに言われた。

<sup>8</sup> 弟子たちはイエスに言った。「先生。ついこの間ユダヤ人たちがあなたを石打ちにしようとしたのに、またそこにおいでになるのですか。」<sup>9</sup> イエスは答えられた。「昼間は十二時間あるではありませんか。だれでも昼間歩けば、つまづくことはありません。この世の光を見ているからです。<sup>10</sup> しかし、夜歩けばつまずきます。その人のうちに光がないからです。」<sup>11</sup> イエスはこのように話し、それから弟子たちに言われた。「わたしたちの友ラザロは眠ってしまいました。わたしは彼を起こしに行きます。」



<sup>12</sup> 弟子たちはイエスに言った。「主よ。眠っているのなら、助かるでしょう。」<sup>13</sup> イエスは、ラザロの死のことを言われたのだが、彼らは睡眠の意味での眠りを言われたものと思ったのである。<sup>14</sup> そこで、イエスは弟子たちに、今度ははっきりと言われた。「ラザロは死にました。<sup>15</sup> あなたがたのため、あなたがたが信じるためには、わたしがその場に居合わせなかったことを喜んでいます。さあ、彼のところへ行きましょう。」<sup>16</sup> そこで、デドモと呼ばれるトマスが仲間の弟子たちに言った。「私たちも行って、主と一緒に死のうではないか。」

<sup>17</sup> イエスがおいでになると、ラザロは墓の中に入れて、すでに四日たっていた。<sup>18</sup> ベタニアはエルサレムに近く、十五スタディオンほど離れたところにあった。<sup>19</sup> マルタとマリアのところには、兄弟のことで慰めようと、大勢のユダヤ人が来ていた。<sup>20</sup> マルタは、イエスが来られたと聞いて、出迎えに行った。マリアは家で座っていた。

<sup>21</sup> マルタはイエスに言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。<sup>22</sup> しかし、あなたが神にお求めになることは何でも、神があなたにお与えになることを、私は今でも知っています。」<sup>23</sup> イエスは彼女に言われた。「あなたの兄弟はよみがえります。」<sup>24</sup> マルタはイエスに言った。「終わりの日のよみがえりの時に、私の兄弟がよみがえることは知っていま

す。」<sup>25</sup> イエスは彼女に言われた。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。<sup>26</sup> また、生きていてわたしを信じる者はみな、永遠に決して死ぬことはありません。あなたは、このことを信じますか。」<sup>27</sup> 彼女はイエスに言った。「はい、主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストであると信じております。」

<sup>28</sup> マルタはこう言ってから、帰って行って姉妹のマリアを呼び、そっと伝えた。「先生がお見えになり、あなたを呼んでおられます。」<sup>29</sup> マリアはそれを聞くと、すぐに立ち上がって、イエスのところに行った。<sup>30</sup> イエスはまだ村に入らず、マルタが出迎えた場所におられた。<sup>31</sup> マリアとともに家にいて、彼女を慰めていたユダヤ人たちは、マリアが急いで立ち上がって出て行くのを見て、墓に泣きに行くのだろうと思い、ついて行った。

<sup>32</sup> マリアはイエスがおられるところに来た。そしてイエスを見ると、足もとにひれ伏して言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」<sup>33</sup> イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのをご覧になった。そして、霊に憤りを覚え、心を騒がせて、<sup>34</sup> 「彼をどこに置きましたか」と言われた。彼らはイエスに「主よ、来てご覧ください」と言った。<sup>35</sup> イエスは涙を流された。

<sup>36</sup> ユダヤ人たちは言った。「ご覧なさい。どんなにラザロを愛しておられたことか。」<sup>37</sup> しかし、彼らのうちのある者たちは、「見えない人の目を開けたこの方も、ラザロが死なないようにすることはできなかつたのか」と言った。

<sup>38</sup> イエスは再び心のうちに憤りを覚えながら、墓に来られた。墓は洞穴で、石が置かれてふさがれていた。<sup>39</sup> イエスは言われた。「その石を取りのけなさい。」死んだラザロの姉妹マルタは言った。

「主よ、もう臭くなっています。四日になりますから。」<sup>40</sup> イエスは彼女に言われた。「信じるなら神の栄光を見る、とあなたに言ったではありませんか。」

<sup>41</sup> そこで、彼らは石を取りのけた。イエスは目を上げて言われた。

「父よ、わたしの願いを聞いてくださったことを感謝します。<sup>42</sup> あなたはいつでもわたしの願いを聞いてくださると、わたしは知っておりましたが、周りにいる人たちのために、こう申し上げました。あなたがわたしを遣わされたことを、彼らが信じるようになるために。」<sup>43</sup> そう言ってから、イエスは大声で叫ばれた。「ラザロよ、出て来なさい。」<sup>44</sup> すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたまま出て来た。彼の顔は布で包まれていた。イエスは彼らに言われた。「ほどいてやって、帰らせなさい。」

## ヨハネの福音書 12 章 12 節～33 節

<sup>12</sup> その翌日、祭りに来ていた大勢の群衆は、イエスがエルサレムに来られると聞いて、<sup>13</sup> なつめ椰子の枝を持って迎えに出て行き、こう叫んだ。「ホサナ。祝福あれ、主の御名によって来られる方に。イスラエルの王に。」<sup>14</sup> イエスはろばの子を見つけて、それに乗られた。次のように書かれているとおりである。<sup>15</sup> 「恐れるな、娘シオン。見よ、あなたの王が来られる。ろばの子に乗って。」<sup>16</sup> これらのことは、初め弟子たちには分からなかった。しかし、イエスが栄光を受けられた後、これがイエスについて書かれていたことで、それを人々がイエスに行ったのだと、彼らは思い起こした。

<sup>17</sup> さて、イエスがラザロを墓から呼び出して、死人の中からよみがえらせたときにイエスと一緒にいた群衆は、そのことを証しし続けていた。<sup>18</sup> 群衆がイエスを出迎えたのは、イエスがこのしるしを行われたことを聞いたからであった。<sup>19</sup> それで、パリサイ人たちは互いに言った。「見てみなさい。何一つうまくいっていない。見なさい。世はこぞってあの人の後について行ってしまった。」

<sup>20</sup> さて、祭りで礼拝のために上って来た人々の中に、ギリシア人が何人かいた。<sup>21</sup> この人たちは、ガリラヤのベツサイダ出身のピリポのところに来て、「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」と頼んだ。<sup>22</sup> ピリポは行ってアンデレに話し、アンデレとピリポは行って、イエスに話した。

<sup>23</sup>すると、イエスは彼らに答えられた。「人の子が栄光を受ける時が来ました。<sup>24</sup>まことに、まことに、あなたがたに言います。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。<sup>25</sup>自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世で自分のいのちを憎む者は、それを保って永遠のいのちに至ります。<sup>26</sup>わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。わたしがいるところに、わたしに仕える者もいることとなります。わたしに仕えるなら、父はその人を重んじてくださいます。<sup>27</sup>今わたしの心は騒いでいる。何と言おうか。『父よ、この時からわたしをお救いください』と言おうか。いや、このためにこそ、わたしはこの時に至ったのだ。<sup>28</sup>父よ、御名の栄光を現してください。」すると、天から声が聞こえた。「わたしはすでに栄光を現した。わたしは再び栄光を現そう。」

<sup>29</sup>そばに立っていてそれを聞いた群衆は、「雷が鳴ったのだ」と言った。ほかの人々は、「御使いがあの方に話しかけたのだ」と言った。<sup>30</sup>イエスは答えられた。「この声が聞こえたのは、わたしのためではなく、あなたがたのためです。<sup>31</sup>今、この世に対するさばきが行われ、今、この世を支配する者が追い出されます。<sup>32</sup>わたしが地上から上げられるとき、わたしはすべての人を自分のもとに引き寄せます。」<sup>33</sup>これは、ご自分がどのような死に方で死ぬことになるかを示して、言われたのである。

## ヨハネの福音書 13 章 1～30 節

<sup>1</sup> さて、過越の祭りの前のこと、イエスは、この世を去って父のみもとに行く、ご自分の時が来たことを知っておられた。そして、世にいるご自分の者たちを愛してきたイエスは、彼らを最後まで愛された。

<sup>2</sup> 夕食の間のこと、悪魔はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうという思いを入れていた。<sup>3</sup> イエスは、父が万物をご自分の手に委ねてくださったこと、またご自分が神から出て、神に帰ろうとしていることを知っておられた。<sup>4</sup> イエスは夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとい、<sup>5</sup> それから、たらいに水を入れて、弟子たちの足を洗い、腰にまとい、手ぬぐいでふき始められた。

<sup>6</sup> こうして、イエスがシモン・ペテロのところに来られると、ペテロはイエスに言った。「主よ、あなたが私の足を洗ってくださるのですか。」<sup>7</sup> イエスは彼に答えられた。「わたしがしていることは、今は分からなくても、後で分かるようになります。」<sup>8</sup> ペテロはイエスに言った。「決して私の足を洗わないでください。」イエスは答えられた。「わたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ないことになります。」<sup>9</sup> シモン・ペテロは言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も洗ってください。」<sup>10</sup> イエスは彼に言われた。「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身が

きよいのです。あなたがたはきよいのですが、皆がきよいわけでは  
ありません。」<sup>11</sup> イエスはご自分を裏切る者を知っておられた。そ  
れで、「皆がきよいわけではない」と言われたのである。

<sup>12</sup> イエスは彼らの足を洗うと、上着を着て再び席に着き、彼らに言  
われた。「わたしがあなたがたに何をしたのか分かりますか。<sup>13</sup> あ  
なたがたはわたしを『先生』とか『主』とか呼んでいます。そう言  
うのは正しいことです。そのとおりなのですから。<sup>14</sup> 主であり、師  
であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのであれば、あなた  
がたもまた、互いに足を洗い合わなければなりません。<sup>15</sup> わたしが  
あなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようと、あなたが  
たに模範を示したのです。<sup>16</sup> まことに、まことに、あなたがたに言  
います。しもべは主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にま  
さりません。<sup>17</sup> これらのことが分かっているなら、そして、それを行  
うなら、あなたがたは幸いです。<sup>18</sup> わたしは、あなたがたすべて  
について言っているのではありません。わたしは、自分が選んだ者  
たちを知っています。けれども、聖書に『わたしのパンを食べてい  
る者が、わたしに向かって、かかとを上げます』と書いてあること  
は成就するのです。<sup>19</sup> 事が起こる前に、今からあなたがたに言っ  
ておきます。起こったときに、わたしが『わたしはある』であること  
を、あなたがたが信じるためです。<sup>20</sup> まことに、まことに、あなた  
がたに言います。わたしが遣わす者を受け入れる者は、わたしを受

け入れるのです。そして、わたしを受け入れる者は、わたしを遣わされた方を受け入れるのです。」



## ヨハネの福音書 13章 31節～14章 18節、15章 18～21節

<sup>31</sup> ユダが出て行ったとき、イエスは言われた。「今、人の子は栄光を受け、神も人の子によって栄光をお受けになりました。<sup>32</sup> 神が、人の子によって栄光をお受けになったのなら、神も、ご自分で人の子に栄光を与えてくださいます。しかも、すぐに与えてくださいます。<sup>33</sup> 子どもたちよ、わたしはもう少しの間あなたがたとともにいます。あなたがたはわたしを捜すことになります。ユダヤ人たちに言ったように、今あなたがたにも言います。わたしが行くところに、あなたがたは来ることができません。<sup>34</sup> わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。<sup>35</sup> 互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」

<sup>36</sup> シモン・ペテロがイエスに言った。「主よ、どこにおいでになるのですか。」イエスは答えられた。「わたしが行くところに、あなたは今ついて来ることができません。しかし後にはついて来ます。」<sup>37</sup> ペテロはイエスに言った。「主よ、なぜ今ついて行けないのですか。あなたのためなら、いのちも捨てます。」<sup>38</sup> イエスは答えられた。「わたしのためにいのちも捨てるのですか。まことに、まことに、あなたに言います。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」

<sup>14:1</sup> 「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。<sup>2</sup> わたしの父の家には住む所がたくさんありま

す。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、  
と言ったでしょうか。<sup>3</sup>わたしが行って、あなたがたに場所を用意  
したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたし  
がいるところに、あなたがたもいるようにするためです。<sup>4</sup>わたし  
がどこに行くのか、その道をあなたがたは知っています。」

<sup>5</sup>トマスはイエスに言った。「主よ、どこへ行かれるのか、私たち  
には分かりません。どうしたら、その道を知ることができるでしょ  
うか。」<sup>6</sup>イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であ  
り、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみも  
とに行くことはできません。<sup>7</sup>あなたがたがわたしを知っているな  
ら、わたしの父をも知るようになります。今から父を知るのです。  
いや、すでにあなたがたは父を見たのです。」

<sup>8</sup>ピリポはイエスに言った。「主よ、私たちに父を見せてくださ  
い。そうすれば満足します。」<sup>9</sup>イエスは彼に言われた。「ピリ  
ポ、こんなに長い間、あなたがたと一緒にいるのに、わたしを知ら  
ないのですか。わたしを見た人は、父を見たのです。どうしてあな  
たは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。<sup>10</sup>わたし  
が父のうちにいて、父がわたしのうちにおられることを、信じてい  
ないのですか。わたしがあなたがたに言うことばは、自分から話し  
ているものではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分の  
わざを行っておられるのです。<sup>11</sup>わたしが父のうちにいて、父がわ  
たしのうちにおられると、わたしが言うのを信じなさい。信じられ  
ないのなら、わざのゆえに信じなさい。

<sup>12</sup>まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしを信じる者は、わたしが行うわざを行い、さらに大きなわざを行います。わたしが父のもとに行くからです。<sup>13</sup>またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは、何でもそれをしてあげます。父が子によって栄光をお受けになるためです。<sup>14</sup>あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしがそれをしてあげます。<sup>15</sup>もしわたしを愛しているなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。<sup>16</sup>そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。<sup>17</sup>この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。<sup>18</sup>わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。あなたがたのところに戻って来ます。

<sup>15:18</sup>世があなたがたを憎むなら、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを知っておきなさい。<sup>19</sup>もしあなたがたがこの世のものであったら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではありません。わたしが世からあなたがたを選び出したのです。そのため、世はあなたがたを憎むのです。<sup>20</sup>しもべは主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。人々がわたしを迫害したのであれば、あなたが

たも迫害します。彼らがわたしのことばを守ったのであれば、あなたがたのことばも守ります。<sup>21</sup>しかし彼らは、これらのことをすべて、わたしの名のゆえにあなたがたに対して行います。わたしを遣わされた方を知らないからです。

## ヨハネの福音書 18 章 1～14 節、28～38 節

<sup>1</sup> これらのことを話してから、イエスは弟子たちとともに、キデロンの谷の向こうに出て行かれた。そこには園があり、イエスと弟子たちは中に入られた。<sup>2</sup> 一方、イエスを裏切ろうとしていたユダもその場所を知っていた。イエスが弟子たちと、たびたびそこに集まっておられたからである。<sup>3</sup> それでユダは、一隊の兵士と、祭司長たちやパリサイ人たちから送られた下役たちを連れ、明かりとたいまつと武器を持って、そこにやって来た。

<sup>4</sup> イエスはご自分に起ころうとしていることをすべて知っておられたので、進み出て、「だれを捜しているのか」と彼らに言われた。

<sup>5</sup> 彼らは「ナザレ人イエスを」と答えた。イエスは彼らに「わたしがそれだ」と言われた。イエスを裏切ろうとしていたユダも彼らと一緒に立っていた。<sup>6</sup> イエスが彼らに「わたしがそれだ」と言われたとき、彼らは後ずさりし、地に倒れた。<sup>7</sup> イエスがもう一度、

「だれを捜しているのか」と問われると、彼らは「ナザレ人イエスを」と言った。<sup>8</sup> イエスは答えられた。「わたしがそれだ、と言ったではないか。わたしを捜しているのなら、この人たちは去らせなさい。」

<sup>9</sup> これは、「あなたが下さった者たちのうち、わたしは一人も失わなかった」と、イエスが言われたことばが成就するためであった。

<sup>10</sup> シモン・ペテロは剣を持っていたので、それを抜いて、大祭司のしもべに切りかかり、右の耳を切り落とす。そのしもべの名はマルコスであった。<sup>11</sup> イエスはペテロに言われた。「剣をさやに収め

なさい。父がわたしに下さった杯を飲まずにいられるだろうか。」  
<sup>12</sup>一隊の兵士と千人隊長、それにユダヤ人の下役たちは、イエスを捕らえて縛り、<sup>13</sup>まずアンナスのところに連れて行った。彼が、その年の大祭司であったカヤパのしゅうとだったからである。<sup>14</sup>カヤパは、一人の人が民に代わって死ぬほうが得策である、とユダヤ人に助言した人である。

<sup>28</sup>さて、彼らはイエスをカヤパのもとから総督官邸に連れて行った。明け方のことであった。彼らは、過越の食事が食べられるようにするため、汚れを避けようとして、官邸の中には入らなかった。  
<sup>29</sup>それで、ピラトは外に出て、彼らのところに来て言った。「この人に対して何を告発するのか。」

<sup>30</sup>彼らは答えた。「この人が悪いことをしていなければ、あなたに引き渡したりはしません。」<sup>31</sup>そこで、ピラトは言った。「おまえたちがこの人を引き取り、自分たちの律法にしたがってさばくがよい。」ユダヤ人たちは言った。「私たちはだれも死刑にすることが許されていません。」<sup>32</sup>これは、イエスがどのような死に方をするかを示して言われたことばが、成就するためであった。

<sup>33</sup>そこで、ピラトは再び総督官邸に入り、イエスを呼んで言った。「あなたはユダヤ人の王なのか。」<sup>34</sup>イエスは答えられた。「あなたは、そのことを自分で言っているのですか。それともわたしのことを、ほかの人々があなたに話したのですか。」<sup>35</sup>ピラトは答えた。「私はユダヤ人なのか。あなたの同胞と祭司長たちが、あなた

を私に引き渡したのだ。あなたは何をしたのか。」<sup>36</sup> イエスは答えられた。「わたしの国はこの世のものではありません。もしこの世のものであったら、わたしのしもべたちが、わたしをユダヤ人に渡さないように戦ったでしょう。しかし、事実、わたしの国はこの世のものではありません。」

<sup>37</sup> そこで、ピラトはイエスに言った。「それでは、あなたは王なのか。」イエスは答えられた。「わたしが王であることは、あなたの言うとおりです。わたしは、真理について証しするために生まれ、そのために世に来ました。真理に属する者はみな、わたしの声に聞き従います。」<sup>38</sup> ピラトはイエスに言った。「真理とは何なのか。」こう言ってから、再びユダヤ人たちのところに出て行って、彼らに言った。「私はあの人に何の罪も認めない。」

## ヨハネの福音書 19 章 1～30 節

<sup>1</sup>それでピラトは、イエスを捕らえてむちで打った。<sup>2</sup>兵士たちは、茨で冠を編んでイエスの頭にかぶらせ、紫色の衣を着せた。<sup>3</sup>彼らはイエスに近寄り、「ユダヤ人の王様、万歳」と言って、顔を平手でたたいた。<sup>4</sup>ピラトは、再び外に出て来て彼らに言った。

「さあ、あの人をおまえたちのところに連れて来る。そうすれば、私にはあの人に何の罪も見出せないことが、おまえたちに分かるだろう。」

<sup>5</sup>イエスは、茨の冠と紫色の衣を着けて、出て来られた。ピラトは彼らに言った。「見よ、この人だ。」<sup>6</sup>祭司長たちと下役たちはイエスを見ると、「十字架につけろ。十字架につけろ」と叫んだ。ピラトは彼らに言った。「おまえたちがこの人を引き取り、十字架につけよ。私にはこの人に罪を見出せない。」<sup>7</sup>ユダヤ人たちは彼に答えた。「私たちには律法があります。その律法によれば、この人は死に当たります。自分を神の子としたのですから。」

<sup>8</sup>ピラトは、このことばを聞くと、ますます恐れを覚えた。<sup>9</sup>そして、再び総督官邸に入り、イエスに「あなたはどこから来たのか」と言った。しかし、イエスは何もお答えにならなかった。<sup>10</sup>そこで、ピラトはイエスに言った。「私に話さないのか。私にはあなたを釈放する権威があり、十字架につける権威もあることを、知らないのか。」<sup>11</sup>イエスは答えられた。「上から与えられていなければ



ば、あなたにはわたしに対して何の権威もありません。ですから、わたしをあなたに引き渡した者に、もっと大きな罪があるのです。」

<sup>12</sup> ピラトはイエスを釈放しようと努力したが、ユダヤ人たちは激しく叫んだ。「この人を釈放するのなら、あなたはカエサルの友ではありません。自分を王とする者はみな、カエサルに背いています。」<sup>13</sup> ピラトは、これらのことばを聞いて、イエスを外に連れ出し、敷石、ヘブル語でガバタと呼ばれる場所で、裁判の席に着いた。<sup>14</sup> その日は過越の備え日で、時はおよそ第六の時であった。ピラトはユダヤ人たちに言った。「見よ、おまえたちの王だ。」<sup>15</sup> 彼らは叫んだ。「除け、除け、十字架につける。」ピラトは言った。「おまえたちの王を私が十字架につけるのか。」祭司長たちは答えた。「カエサルのほかには、私たちに王はありません。」<sup>16</sup> ピラトは、イエスを十字架につけるため彼らに引き渡した。彼らはイエスを引き取った。

<sup>17</sup> イエスは自分で十字架を負って、「どくろの場所」と呼ばれるところに出て行かれた。そこは、ヘブル語ではゴルゴタと呼ばれている。<sup>18</sup> 彼らはその場所でイエスを十字架につけた。また、イエスを真ん中にして、こちら側とあちら側に、ほかの二人の者を一緒に十字架につけた。<sup>19</sup> ピラトは罪状書きも書いて、十字架の上に掲げた。それには「ユダヤ人の王、ナザレ人イエス」と書かれていた。

<sup>20</sup> イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。それはヘブル語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。<sup>21</sup> そこで、ユダヤ人の祭司長たちはピラトに、「ユダヤ人の王と書かないで、この者はユダヤ人の王と自称したと書いてください」と言った。<sup>22</sup> ピラトは答えた。「私が書いたものは、書いたままにしておけ。」

<sup>23</sup> さて、兵士たちはイエスを十字架につけると、その衣を取って四つに分け、各自に一つずつ渡るようにした。また下着も取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目のないものであった。<sup>24</sup> そのため、彼らは互いに言った。「これは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」これは、「彼らは私の衣服を分け合い、私の衣をくじ引きにします」とある聖書が成就するためであった。それで、兵士たちはそのように行った。

<sup>25</sup> イエスの十字架のそばには、イエスの母とその姉妹、そしてクロパの妻マリアとマグダラのマリアが立っていた。<sup>26</sup> イエスは、母とそばに立っている愛する弟子を見て、母に「女の方、ご覧なさい。あなたの息子です」と言われた。<sup>27</sup> それから、その弟子に「ご覧なさい。あなたの母です」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分のところに引き取った。

<sup>28</sup> それから、イエスはすべてのことが完了したのを知ると、聖書が成就するために、「わたしは渇く」と言われた。<sup>29</sup> 酸いぶどう酒が

いっぱい入った器がそこに置いてあったので、兵士たちは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソプの枝に付けて、イエスの口もとに差し出した。<sup>30</sup> イエスは酸いぶどう酒を受けると、「完了した」と言われた。そして、頭を垂れて霊をお渡しになった。

## ヨハネの福音書 19 章 38~20 章 18 節

<sup>38</sup> その後で、イエスの弟子であったが、ユダヤ人を恐れてそれを隠していたアリマタヤのヨセフが、イエスのからだを取り降ろすことをピラトに願い出た。ピラトは許可を与えた。そこで彼はやって来て、イエスのからだを取り降ろした。<sup>39</sup> 以前、夜イエスのところに来たニコデモも、没薬と沈香を混ぜ合わせたものを、百リトラほど持ってやって来た。<sup>40</sup> 彼らはイエスのからだを取り、ユダヤ人の埋葬の習慣にしたがって、香料と一緒に亜麻布で巻いた。<sup>41</sup> イエスが十字架につけられた場所にはそのがあり、そこに、まだだれも葬られたことのない新しい墓があった。<sup>42</sup> その日はユダヤ人の備え日であり、その墓が近かったので、彼らはそこにイエスを納めた。

<sup>20:1</sup> さて、週の初めの日、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓にやって来て、墓から石が取りのけられているのを見た。<sup>2</sup> それで、走って、シモン・ペテロと、イエスが愛されたもう一人の弟子のところに行って、こう言った。「だれかが墓から主を取って行きました。どこに主を置いたのか、私たちには分かりません。」

<sup>3</sup> そこで、ペテロともう一人の弟子は外に出て、墓へ行った。<sup>4</sup> 二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子がペテロよりも速かったので、先に墓に着いた。<sup>5</sup> そして、身をかがめると、亜麻布が置いてあるのが見えたが、中に入らなかった。<sup>6</sup> 彼に続いてシモン・ペテロも来て、墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。<sup>7</sup> イエスの頭

を包んでいた布は亜麻布と一緒にではなく、離れたところに丸めてあった。<sup>8</sup> そのとき、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来た。そして見て、信じた。<sup>9</sup> 彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかった。<sup>10</sup> それで、弟子たちは再び自分たちのところに帰って行った。

<sup>11</sup> 一方、マリアは墓の外にたたずんで泣いていた。そして、泣きながら、からだをかがめて墓の中をのぞき込んだ。<sup>12</sup> すると、白い衣を着た二人の御使いが、イエスのからだが置かれていた場所に、一人は頭のところに、一人は足のところに座っているのが見えた。<sup>13</sup> 彼らはマリアに言った。「女の方、なぜ泣いているのですか。」彼女は言った。「だれかが私の主を取って行きました。どこに主を置いたのか、私には分かりません。」

<sup>14</sup> 彼女はこう言ってから、うしろを振り向いた。そして、イエスが立っておられるのを見たが、それがイエスであることが分からなかった。<sup>15</sup> イエスは彼女に言われた。「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」彼女は、彼が園の管理人だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。私が引き取ります。」<sup>16</sup> イエスは彼女に言われた。「マリア。」彼女は振り向いて、ヘブル語で「ラボニ」、すなわち「先生」とイエスに言った。

<sup>17</sup> イエスは彼女に言われた。「わたしにすぎりついてはいけません。わたしはまだ父のもとに上っていないのです。わたしの兄弟たちのところに行って、『わたしは、わたしの父であり、あなたがたの父である方、わたしの神であり、あなたがたの神である方のもとに上る』と伝えなさい。」<sup>18</sup> マグダラのマリアは行って、弟子たちに「私は主を見ました」と言い、主が自分にこれらのことを話されたと伝えた。

## ヨハネの福音書 20 章 19～31 節

<sup>19</sup> その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」<sup>20</sup> こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。

<sup>21</sup> イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。」<sup>22</sup> こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。<sup>23</sup> あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦されます。赦さずに残すなら、そのまま残ります。」

<sup>24</sup> 十二弟子の一人で、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。<sup>25</sup> そこで、ほかの弟子たちは彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見て、釘の跡に指を入れ、その脇腹に手を入れてみなければ、決して信じません」と言った。

<sup>26</sup> 八日後、弟子たちは再び家の中におり、トマスも彼らと一緒にいた。戸には鍵がかけられていたが、イエスがやって来て、彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。<sup>27</sup> それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしの脇腹に入れなさい。信じ

ない者ではなく、信じる者になりなさい。」<sup>28</sup> トマスはイエスに答えた。「私の主、私の神よ。」<sup>29</sup> イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」

<sup>30</sup> イエスは弟子たちの前で、ほかにも多くのしるしを行われたが、それらはこの書には書かれていない。<sup>31</sup> これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。



## クリスチャンになるためのお祈り

天の父なる神さま、

わたしは、あなたを必要とせずに、自分の人生を支配する者として歩んできました。わたしは、あなたの裁きに値する者で、自分から解決することができないことを認めます。

お赦してください。

わたしの身代わりとして、イエスさまをこの世に送ってくださり、ありがとうございます。

イエスさまが、死人のうちからよみがえり、今も生きておられることに感謝します。

イエスさまを、わたしの人生の主として、救い主として、歩んでいけるように助けてください。

アーメン。

Dear Father,

I'm sorry I've been living my life without you as my God.

I admit I deserve your judgement, and I cannot fix this myself.

Please forgive me.

Thank you for sending Jesus to die in my place.

Thank you that Jesus rose from the dead and is alive today.

Please help me now to live with Jesus as my Saviour and Lord.

Amen.